

新 生

平成二十六年三月 十日印刷
平成二十六年三月 二十日発行

新生第六十六巻 第一号

一本の松に 被災者 励まされ

小富士



東北新生園入所者自治会

新 生

平成二十六年三月 十日印刷
平成二十六年三月 二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男40名 女51名 計91名
職員定員数	153名（平成25年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第六十六巻 第一号

園内日誌

平成二十五年 十月～十二月

《十月》

六日 第十二回少年少女野球東北新生園大会
 二十二日 秋季バス旅行（定義山）
 二十三日 宮城県慰問
 二十四日 秋田県羽後町慰問
 宮城県知事選挙の不在者投票

《十一月》

七日 第十二回パネル展
 八日 第十二回パネル展・屋台祭
 十三日 新潟県慰問
 二十六日 仙台法務局人権擁護部二名来園

《十二月》

三日 作業者慰安旅行（北上市）
 六日 登米市健康推進課三名来園
 十一日 SENDAI光のページェント
 見学バス旅行

【謝寄贈図書館】

平成二十五年十月～十二月（敬称略）

始良野	多磨	高原	高松	青生	愛生	点字愛生	菊池野	楓	甲田の裾
鹿児島県	東京都	群馬県	香川県	岡山県	岡山県	岡山県	熊本県	岡山県	青森県
星塚敬愛園	多磨全生園	栗生楽泉園	大島青松園	長島愛生園	長島愛生園	長島愛生園	菊池恵楓園	邑久光明園	松丘保養園

平成26年3月10日 印刷
 平成26年3月20日 発行

発行所 東北新生園楓会(自治会)
 編集 楓会文化部
 印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
 発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600

宮城ハンセン協会招待

SENDAI光のページェント見学バス旅行

－ 平成25年12月11日 －



◀ 仙台の定禅寺通り
 ケヤキ並木を60万球の
 電球でライトアップした
 SENDAI光のページェント

歌手
 ぶんやひろこ さん ▶



▲ 舞踊
 大泉智枝 さん

▼ シンガーソングライター
 平塚ひろみ さん



楽しいひと時を過ごさせて頂きました！



新生・第六十六巻第一号……………目次

表紙…「二本松」……………桃生 小富士

—平成二十三年三月十一日 千年に一度の大津波。東日本大震災、岩手県高田松原七万本の松が流され、ただ一本奇跡的に残った松を描く—

新年によせて……………	楓会会長……………久保 瑛二……………(2)
留学のすすめ……………	園 長……………横 田 隆……………(6)
ふるさとのこと……………	看護師長……………佐 藤 麻梨子……………(17)
人生楽しまなくっちゃ!!……………	看護師長……………佐々木 千恵子……………(19)
思い出……………	副看護師長……………鎌 田 國 子……………(23)
第三十二回全国中学生入権作文コンテスト宮城県大会河北新報社賞受賞	
随筆「母と娘の語らい」……………	今野 きよし……………(25)
手を差しのべ合つて……………	栗原市瀬峰中学校二年 菅 原 麻 衣……………(28)

— 新 生 文 芸 —

詩……………	選 者……………佐々木 洋一……………(31)
短 歌……………	選 者……………長 田 雅 道……………(33)
俳 句……………	選 者……………山 田 桃 晃……………(35)
川 柳……………	選 者……………石 隆 子……………(36)
定年退職を迎えて思うこと……………	看護師……………佐 藤 昌 子……………(38)
思い出のアルバム……………	看護師……………佐 藤 和 枝……………(40)
思い出……………	介護長……………八 貞 作……………(42)
随筆「母娘の会話 三つ指」……………	看護助手……………今野 きよし……………(44)
園内日誌・謝寄贈図書……………	

新年によせて

楓会会長 久保 瑛 二

寮友の皆様、新年おめでとうございます。

昨年は、会員をはじめ、職員の方々、また一般の多数の方のご指導とご協力を得ながら、自治会活動を推進させる事が出来、ここに改めて関係各位の皆様に厚く心より御礼申し上げますと共に、本年も変わらざるご理解とお力添えの程よろしくお願い申し上げます。

平成二十六年の幕開けは、国内的にも例年にまして政治の面で大きな変化があり、一抹の不安を覚えて新年を迎えました。

昨年也是如此でしたが、一般社会においては、心驚くばかりの政治の状況が連日のように大見出しで、金と政治の事柄がテレビ、新聞の論調で社会面を賑わせている事の異常さは、どう受け止めてよいのか、理解に苦しむものです。

ご承知のとおり政権の流れも変わり、今後の世の動きも目を離せない気持ちがつのります。

その様な流れの中で、私どもの自治会活動も、年々その運営もさることながら活動の範囲も多岐に亘り、しみじみと行先きの取組等に不安が際立つ思いです。

なかでも、役員の欠員が続き、いつ休会状態になっても不思議でない現象がひしひしと感じられる昨今です。

いつも言うことですが、会員の方々の高齢化、さらには減少の一途をたどる会員数を思うとき、一抹の淋しさを覚えるのも私一人ではないのではないのでしょうか。

特に友園のある施設の自治会の休会状態は、同じく窮状を抱える当自治会にとつても他人事ではなく一日も早く何らかの手がかりをと、日夜考えてはいるものの入所者の高齢化と減少が重大な意味をもってきたのは言うまでもありません。

そうした中で、二〇〇九年四月「ハンセン病問題基本法」の施行がなり、加速的に全国十三のハンセン病療養所の将来構想の策定とその具体化の取組みが、より真剣に汗をかくことに真正面からと決意を固めています。

しかし、このことを思うに、各十三園施設の立地的条件、加えて支部事情、地域環境の異なり等を勘案する時にかなりの労力が必要とされ、まとまることの難しさを覚えます。

基本法では「社会の中で生活するのと遜色のない生活及び医療の水準を保証するため、財政上の措置を講ずる」とともに「療養所の生活及び医療体制の整備を行う」とも、また「その生活が、地域社会から孤立したものにならないよう」その目的を達成するため療養所の「土地及び整備を地方公共団体あるいは、地域住民等の利用に供する等に必要な措置を講ずることがで

きる」とありますが、「ハンセン病問題基本法」を精読しますと、やはり何といっても「基本法」の主眼は、「療養所を地域に向けて開放し、医療機関としての存続、維持を図りながら地域住民と共生する」というのだと理解を深めたところである。

しかし、この文言は、ある程度の理解は出来るにしても、私の在園する東北新生園は、目的は、判っていても現実化に向けての作業は内にあっても、また外に向けての将来の展望は多くの議論が必要ではと悩むものです。

いわんや、流動する世界的不況の社会情勢の動向の行末を見ながら、その時代に対応出来る確かな目を持って取り組んで参りたいと願うものです。

今、私達の住む東北新生園の入所者の平均年齢も八十五歳とも数え、特に近年は高血圧や老人性精神障害、癌等の事例も増え深刻な問題が尽きません。

ハンセン病問題基本法が制定されたとはいえ、現在の当園での常勤医の不足が、将来構想の策定の話が及ぶ時、療養所の基本であるべき、医師の不足は今後の存続の問題にも影響を与えるものと悩むところです。

こうした深刻さを抱えるなかで、すでに当園では平成十四年七月には将来構想整備に関わる委員会を設け、平成十六年には計画を取りまとめ、第一期工事として、三ヶ年計画による三階建て六十床も平成十九年に完成、さらに第二期工事として二階建て二十床も平成二十一年に完成し、園内の集約化の整備がなされている。

敢えて言葉を継ぐならば着々と「ハード面」での整備は、当園の将来構想の一環として当初

の計画通り考慮されているところであり、加えて今後は「ソフト面」での在園者の「医療」「福祉」の向上を図るために、県、市と共に連携し、更なる「医療体制の充実」を多くの皆様のご支援ご協力を頂きながら取り組んで参りたいと願っております。

今後多くの皆様にとりましても、幸多き日々でありますことを祈念し、新年の挨拶と致します。

二〇一四年 元旦



留学のすすめ

園長 横田 隆

最近、当園の若いドクター達から米国に留学に行く話を聞いて、二十年前の自分の事を思い出していました。私は平成二年より三年間、米国の国立衛生研究所に勤務しました。昔を思い出しながら、若い方々には、是非、米国の医療状況や研究所などを見てきて、見聞を広げていただきたいと思つた次第です。思いつくままに、留学に関する雑感を記してみます。とは言え、かなり昔の話なので、現在の状況とは異なっているかもしれません。

【応募が事の始まり】
私の場合は、仕事が癌に対する抗体の基礎的研究というのをテーマにしていましたので（その当時の流行りでした）、そのテーマでリードしていたアメリカの研究者から、応募先を探すことから始まりました。論文を読んで、目を引いたのが、日本人の研究者も論文を多く発表している、ジェフリー・シュローム博士の研究室で、その研究室宛に自分が書いた英語論文と、その研究室で研究をしたい旨、手紙を書きました。手紙を書くのも、

英語で書くのに慣れていなかったため、英語の手紙の書き方^①に関する本を何冊か買い込み、熟読、そのサンプルの文章をつなぎ合わせて、何とか送りました。二週間後くらいに、あちらから了解した、この話を進めたい^②という手紙が来て、留学の手続きが開始されることになりました。シュローム博士

の研究所からの給与をもらうようにすべきと考えます。ただでいいから使ってくれ^③方式の売り込みはあまりよくない、日本人としての尊厳、自尊心だけでなく、これだけ働くから、給料はいくらくれ^④式の自己宣伝の方がよい結果を生むと思われれます。

【親切的日本人が研究室にいと圧倒的に有利】

米国に行ったはいいけど、右も左もわからない^⑤という状況に陥りますので、ここは行く前に日本人の知り合いが同じ研究室にいとこれは有利です。私の場合は、熊本大学第二外科から、すでに数年経過した先生がおられて、その先生がアパートのことや、日常生活のセットアップについて、全面的に支援して下さいましたので、とてもスムーズに米国の生活をスタートすることが出来ました。この先生は、現在は八代市で大きな病院の院長をされており、病院の建て直しに経営手腕を発揮したと、菊池恵楓園の前園長の原田先

留学に行く日本の医師は、出来るだけ米国

生より伺いました。

米国では運転免許証も取らないといけませんが、この先生より、予想問題も伝授していただき、学科試験は9割以上出来、実技試験も無事に合格することが出来ました。自分の車で実技試験をするので、慣れたものでしたが、縦列駐車でやり直しをさせられ、これは駄目かと思っていました。試験官より、「おめでとう、合格」と言われてホッとしたものでした。

運転免許証は米国ではID（身分証明書）として、常に提示を求められるため、取得の必要性は非常に大です。

【英会話は勉強しておいた方がいい】

米国に行く前に、英語論文は数編書いていましたが、英会話などは特別にしていませんでした。何とかなるだろうなどと、高をくくっていたところが多分にあり、これは失敗でした。

い：「くらいの何気ない意味のようで、決してケンカになる表現ではありませんでした。これはいかんと思い、シュローム先生にお願いして、国立衛生研究所内に英会話スクールがありましたので、そこに通うことになりました。しかし、上達はせず、研究室の女性が昼食時に話をする、バッグのこととか、化粧の話とかは全く理解出来ないまま終わりました。英会話教室で、私よりも英語が出来なかったのは、ロシア人ただ一人でしたが、私よりも遙かに速く、英会話が上達したのも腹立たしいことでした。留学するドクターは、最小限の英会話はやっておくことをお勧めします。

【日本人に慣れているアメリカ人とは会話出来る】

これは非常に重要なことで、シュローム博士は、私が行くまで4、5人の日本人と共に働いたことがあったため、日本人の英語に実

初めて研究室に行ったときに、一人のアメリカの研究より、「メイク ドナーはトライしたか？」と聞かれ、メイク作る、ドナー臓器を提供する人、だから、これは「移植医療」についての質問と思い、「日本では脳死が認められない」と答えると、その場にいた数人のアメリカ人がドツと笑い出しました。「日本の移植医療を愚弄するのかっ！」と怒りが湧きましたが、聞いたアメリカ人が何かを食べる格好をしたので：「メイクドナー」は「マクドナルド」だったので。要は、マクドナルドのハンバーガーを食ったかい？という質問だったわけで…。

また、英語で「Why don't you…」という表現がありますが、これを、同じ研究グループになったイタリア人が乱発していたので、直訳すると、「なぜ、…しないのか」という意味に捉え、「なぜ、こんな強圧的に言うのだろうか」と、腹立たしく思っていました。ところが、この表現は、「…したらどうだ

によく慣れており、仕事の内容についての指示は、必ず、博士が自分で書いて、コピーをくれたので、仕事上のことでは、一切、言葉による不自由はありませんでした。ところが、一緒に仕事をしている技官の女性は、日本人との仕事の経験がなかったため苦労しました。まずは、早口すぎて、何を言っているのかさっぱりわからない、スラング（方言）も多種多様に散り蒔かれているので、さらにこれが英語か…！と慨嘆するようなことも多かったです。ゆっくり話して…と何度も言うのだけれど、話すことが出来ないのでしょうか。マシンのように話さないでほしい、撃たれたような気になる…と何度も懇願したものでした。

英会話においては、アメリカ人はプロのピッチャー、日本人は草野球もやったことがない素人。プロのピッチャーが150キロの剛速球を投げれば、素人は取ることが出来ません、これは当然です。ピッチャーに思いやりと知性があれば、この人は野球を知らない

いんだな…では、こんな球を放ってあげよう…”と日本人のグローブにはまるように、緩やかな球を投げるでしょう。会話は“キャッチボール”です。日本人とキャッチボールを何度もしていると、日本人の英語が分かってくるのでしょうか。

だから、私は日本人に慣れているアメリカ人とは会話出来ます。アメリカ人においては、出来るだけ日本人英語に慣れていただき、誰でも会話出来るようになることを希望します。

【ファーストネームで呼び合うのは】

米国では、同僚を呼ぶのにファーストネームで呼び合いますが、これが最初馴染めませんでした。日本人の名前は呼びにくいらしく、私の名前も“どこにアクセントがあるのか？”と何度も聞かれ、“日本の名前はノーアクセント”と何度も言いました。“平らに言うてよ”と言いましたが、アクセントがないと

アメリカ人は発音出来ないようです。日本人にとつては、どこかにアクセントを持って呼ばれると、怒られているように感じます。

呼びにくい名前の日本人に、“あなたの本当の名前は呼びにくいから、「サム」って呼んでいいかい？”などというアメリカ人もおり、呼ばれた日本人は“絶対に駄目だ！”と怒っていました。“俺はサムじゃない！”

研究室の室長のシュローム博士は、ジェフリーというファーストネームだったため、皆は「ジェフ」と呼んでいましたが、気をつけて見ていると、ジェフ、と本人に呼びかける人はあまりおらず、“ジェフがどう言った…”とか“ジェフは今日はいない”とか、いないところでは、ジェフが多用されていました。本人に対しては、“…ウー…”などと言ってから、話しかけることが多かったようでした。職場で一番上の人間には一定の節度があったのかもしれない。

セクション・チーフの一人は、夕方、荷物

を持って帰ろうとして、シュローム博士の部屋の電気が消えているのを確かめ、安心したような面持ちで帰って行ったのを見たとき、“日本と同じだわな”と妙に納得したことを覚えております。

【日本でやるように仕事をすれば高評価】

当初はイタリア人と組んで仕事をしており、まずしたので、仕事ぶりを観察していましたが、非常にスローな気がしました。たとえば、一週間の実験があると、毎日の実験が終わった資料は、コールドルーム（大きい冷蔵庫）に保管して、全部がそろったところで、次の週にまとめて測定するということでした。このようなやり方でも、上司のシュローム博士からはクレームも出ませんでしたので、こんなんでいいのかな…と思っていました。ただ、独り立ちしてからは、私は常に早くに実験を始めて、その日のうちに測定し、結果を出して、上司の机の上に置いておく…ということ

をし、その週の終わりにはすべての結果を出してグラフにしておきました。このようなことは日本では誰でも普通にやっていることでしたが、シュローム博士は大変に喜び、前述の熊本大の先生とともに、“日本からの研究者は実によく仕事をする”と皆の前で誉められました。日本では誉められたことなど一度も無い私にとつては、こそばゆいような、照れくさいような、キツネにつままれたような…そんな心境でした。

米国では普通に仕事をしていれば誉められますので、日本人は仕事に対して気楽に構えた方がよいでしょう。

【席替えがある研究室では】

私がいた研究室では、シュローム博士の指示により、定期的に席替えがありました。これは研究の状況や業績の出し方などで、よい席に行ったり、悪い席にやられたりしたのでした。私は最初に勤務したときは、技官の席

の隣で、ほとんど物も置くスペースがないところでしたが、二ヶ月で部屋の一角のスペースをもらい、一年で二人部屋をもらうことが出来ました。二人部屋はセクション・チーフ（研究室の部課長みたいな位）がいるところで、一人部屋は研究室長のシユローム博士のみであることを考えると、かなり名誉なことだったのでしょうか。ただ、いつ転落するかわからないような状況でした。現に、アメリカ人で悪い席に移転を命じられて、“屈辱だ…”と泣いていた女性もありましたので、大変なことだと感じたものでした。

どうすれば悪い席に転落しないですむか：これには、シユローム博士には内緒の研究をいくつかしておいて、結果を出しておきました。それで、もし、研究業績が振るわずと判断され、部屋の移転を命じられたら、この結果を見せて、この研究を続けるには、二人部屋がどうしても必要！と主張しようと思っておりました。しかし、それから二年、一度も

その結果をシユローム博士に見せることもなく、二人部屋で研究室の最後を迎えることが出来たのは幸いでした。

【米国から論文を送ると載りやすい？】

日本においても英語論文を何編か書いていましたが、なかなか外国の科学誌に論文が載るのは、難しいことです。米国では、三年の間に、二編、筆頭者として論文が掲載されましたが、どちらも一字一句、シユローム博士に添削していただけたのは幸運でした。科学雑誌の編集部には、シユローム博士が手紙を書いて、この論文の優れた点は、これこれで、審査員には、〇〇と××を指名したい、と論文を審査する人間を、自分の親しい友達に指定していました。実際、論文を提出して二週間くらいで、その二人から電話がシユローム博士のところであり、“いやあ、面白い研究だなあ”という感想を言っていたそうです。これなら絶対に落ちることはありません。日

本から論文を提出して、このような裏技はなかなか使えないなあ…と思ったものでした。

シユローム博士の所にも、一年に何編もの論文が審査のために送られてきて、私に“見てくれ”と言われて、ゴーストライターのよいうな役割を務めました。研究室のアメリカ人の中でも、“自分は専門でないからわからない”と査読を断る者も多く、それに引き替え、私は査読論文を渡されれば、多少わからなくても何かコメントを書く…という態度がよかったです。

【アメリカ人は休日楽しむために働いている】

アメリカ人は休日を大切にして、“よい週末を”とか、“週末はどうだった？”などと挨拶代わりによく声をかけあっています。あまり日本では流行っていないようですが、週末に何かして楽しかった…などと月曜日に話をするというのが、定番となっていました。夏休みなども二週間、三週間取るのは当たり

前で、休日を家族とエンジョイするというのはよい風習と思いました。日本人はつい、休日に休んでレジャーするのに、後ろめたさがないではないでしょうが、アメリカ人を見習って、このあたりは人生エンジョイした方がいいでしょう。

夏時間があるアメリカでは、夏は七時過ぎても明るく、仕事が終わってから、十分にどこかに遊びに行くことも出来ます。留学する若いドクターは、是非、レジャーも十分に楽しんでいただきたいです。

【アメリカ人はとても優しい…】

米国では、楽しい思い出だけではなく、子供が亡くなるという悲しい出来事もありました。米国留学して、学会発表や論文を書いたりする研究者はたくさんいるでしょうが、お葬式までした経験のある人はあまりいないでしょう。日本では、医療をしていて、患者が急変して、足がすぐむ経験は何度もしており

ましたが、異境の地で、これほどの体験をするとは、それ自体、信じられなく、悪い夢を見ているような、地面が崩れ落ちるような、そんな気持ちでしたが、アメリカ人はとことん親切で、サポートしてくれたため、困難は一切感じませんでした。救急隊や、病院関係者、小児科のドクターも親身になってくれました。小児科のドクターは東京医科歯科大にいたことがあって、片ことの日本語がしゃべれたため、米国のシステムや最後にもらう診断書について説明してくれました。これはありがたいことでした。

シュローム博士も心から心配してくれ、〃奥さんと一緒に日本に帰って、奥さんを親元に二週間以上は帰すこと、そして、その後は元気に二人で米国に必ずもどってきてほしい：〃と言われました。その後も、研究室のハイキングなどには、家内も誘ってくれて、博士自ら案内をしてくれたりと、数え切れない恩がありました。同僚も、食事の差し入れをして

くれたり、家と呼んでご馳走してくれたり、あれこれ面倒を見てくれました。

葬儀場においての必要書類で、家内の結婚前の名字を書く欄がありました（米国ではそれまでに何回か書く機会がありました）、それまであまり寝ておらず、頭も混乱していたためか、家内の母親の実家の名前を書いてしまい、家内から〃違うよ、違うよ〃と何度も言われて、我に返りました。喪服を着た初老の葬儀社事務員からは、〃心配しないで：私は自分の結婚式の時に女房の名字どころか、名前まで忘れてしまったから：〃と慰められ、手を握ってくれました。ウィットに富んだ言葉で、緊張していた空気が俄に和み、家内と二人の顔に笑顔が戻った瞬間でした。

現在、アメリカと日本の関係は微妙なところもありますが、これは国益が絡むからであり、アメリカ人一人一人は、困った人を助けるのに躊躇しない教育を受けており、宗教的なバックグラウンドがあるのかもしれませんが

が、救助を求める人に対する義侠心は誰もが変わらずに持ち続けているものと私は今でも信じております。

【米国での出産は】

米国での生活に慣れ、周りのアメリカ人たちからこのように親身になっていた私たち夫婦は、これなら出産しても大丈夫だろうという気持ちになって来ました。若かったということもあるでしょうが、今から思うと大胆だったなあ：と感じます。シュローム博士に出産についての不安を相談すると、〃大丈夫だよ、出産はプリミティブ（原始的な）行為だよ、医療がないところから人類がやってきたことなんだ、心配ない〃という言葉に勇気づけられました。

定期健診では、仕事を休み、その都度付きそい、出産に際しては、職場に二週間の休みをもらい、今では珍しくない〃イクメン〃を実践しました。それまで米国の職場では、

〃ジャパニーズ・ハズバンド（日本の夫）は奥さんの手伝いや子育てをしないそうだが：どうなんだ？〃式の問いかけが多くあり、日本の亭主はアメリカではそのような評価になつていたので常々感じていました。それに対しては、中学の英語の授業で習った〃郷に入りては郷に従え〃を英語で答え、アメリカの同僚たちは満足げに頷いていたものでした。出産に際しては、中国系麻酔医が硬膜外麻酔を入れてくれたため、痛みも和らいだようでした。産科医は、南米系の中年の女医でしたが、〃あなたはサージャン（外科医）なんでしょ、だったら手伝って〃と、清潔手袋を付けて、臍帯をコッヘルではさみ：など、甲斐甲斐しく、助手を務めました。

出産後は二人部屋で過ごしましたが、夫はいつでも来てよいというシステムになっていたの、そこに泊まりました。入院は二日間のみとのことなので、もう少しさせてもらえないか、と頼むと、〃ホテルへ行け〃との

ことで、どうしようもありませんでした。生まれたばかりの赤ん坊は、ひもじいせいか、手の指をチュウチュウ吸っていたのが印象的でした。ガタイのいいナースが、私たちの赤ん坊をフットボールのように小脇にかかえ移動していたので、ハラハラしましたが、もつと丁寧に扱ってくれ！と思ったものでした。これなら二日間できつさと退院した方がいいな…とまで思うようになりました。アメリカで生まれた子供がこの三月で大学卒業というのは、時の経つ速さを感じないわけにはいきません。年取るわけです。

【若者よ、荒野を目指せ】

若いドクターはどんどん海外に行って、研鑽を積んでいただきたいと考えます。日本のよいところも、増幅して感じることも出来ますし、劣っているところも理解出来ます。米国の良さも様々なところで実感できましよう。言葉は通じないし、異文化だし、不安はい

ろいろあるとは思いますが。しかし、学べるものは非常に大きい。新生園の職員のドクターも是非、機会があれば勇気を出して行っていただきたいですが、是非、また新生園に戻ってきて、一回りも二回りも大きくなった姿を見せていただきたい。それが施設長としての希望です。



向かって右端に中腰になっているのがシューロム博士、その斜め後ろに立っているのが筆者(25年前)、博士の隣りに座っているのが、いろいろと留学のお世話をしてくれた熊本大の島田信也先生(現 熊本総合病院院長)。

ふるわつのいふ

看護師長 佐藤 麻梨子

結婚して宮城県に住むようになり、もう生まれ故郷に住んでいたより長くなってしまいました。宮城が自分の故郷とも言えますが、出身地の北海道・稚内のことを少しお話しします。

稚内は、日本の最北端、北海道地図の一番上になります。私は、その稚内よりさらに北の宗谷という村で生まれました。「日本最北端の碑」があり、いまでも七月、八月の観光シーズンには沢山の観光バスやバイクで駐車場はいつでも満杯です。日本海と太平洋がぶつかるオホーツク海で、小さい頃は、毛ガニや縞エビが沢山とれました。現在は、岸壁が

大きく作られ許可がないと捕れませんが、その頃は誰でも自由に捕れ、遠浅の海が引き潮になるとかなり遠くまで歩いて行けるので、私も蟹を捕りに行ったものです。大きめの石を退けるとそこにいるんです。素手では爪に挟まれるので、火鉢で捕まえます。とりたての毛蟹を大きな鍋で茹でて熱いうち食べるのは最高のご馳走でした。昆布やウニも捕れました。昆布干しというものをやった事がありますか？船で採ってきた昆布を砂浜に長く伸ばして天日干しをします。一日では乾燥しないので、何日か続けて干しますが、夏の間毎日採って干すので大変な量になります。私も小さい頃から干すのを手伝いました。どこの家でも夏になると家族総出でやっていたのを思い出します。利尻昆布と言われ最高のダシがとれるので高値で売れたそうです。今でも採れています。利尻昆布は北海道土産の中でも高めですよ。

食べ物の事ばかり書きましたが、景色もな

かなか素敵ですよ。「最北端の碑」からは晴れた日に遠く樺太(サハリン)が右に見え、左には利尻岳(通称利尻富士)が見えます。青空に映えてとても綺麗です。樺太は、第二次世界大戦前は、日本が占領していた樺内から船で樺太に沢山の人が渡っていたそうです。終戦時に樺太にあった電話局の交換手の女性達がソ連軍に捕まらないように「さようなら、さようなら、これが最後です」と日本に連絡し自決した話しは有名です。稚内公園の丘には「氷雪の門」「交換手の記念碑」が、樺太の方向をむいて建っています。遠い昔の話のようですが、高校生の頃当時の交換手の生き残りの方が同級生のおばさんで、悲しい思い出を話してもらった記憶があります。

宮城県もこの冬は何十年ぶりで大雪が降りましたが、北海道の冬は、毎年が大雪です。でも、私が小さい頃に比べるとずっと少なくなりました。これも温暖化の影響ですね。雪は屋根まで届く位降り、吹雪の後には玄関も

びつしり雪で塞がり、外に出られなくなることもありました。が、今は、ほとんどそんな日はありません。今も兄が稚内に住んでいて、雪かきは大変のようですが。

稚内には高い山がありません。唯一、稚内の隣にある利尻島の利尻岳が本格的な登山の対象です。私も高校生の頃夏山に挑戦しました。夜中に登り始め朝に頂上で日の出を見る予定でしたが、八合目にたどり着いた頃は疲れ果て頂上迄行かなかった根性無しです。でも、下山して友達の家で食べた捕れたてのイカの刺身はとても美味しくて、いまもその時に食べた様なイカの刺身にはお目にかかっていません。捕れたてのイカは透き通り、コリコリと硬いことを知っていましたか？

ふるさとのことを書き始めたつもりが、やっぱり最後も食べ物のことになってしまい申し訳ありませんが、最後ですからおおめにしてください。

新生園の皆様いつまでもお元気で!!

人生楽しまなくっちゃ!!

平成二十六年二月 退官によせて

看護師長 佐々木 千恵子

「心が喜ぶ生き方、幸せな生き方とは今の幸せに気づくことです。」ひすいこたろうは「幸せになる作法」の文頭で言っている。

「拔萃のつづり その七十三」に載っているので、最近読まれた方も多いのではないかと思う。

台風が続いて青森でリングが9割も落ちてしまった年、リング農家の方は作ったリングの9割が売れないと嘆き悲しんだ。そのとき嘆き悲しまなかった人がいたそうです。その方は落ちなかったリングを「落ちないリング」の名前で受験生に売り出したところ、1個千円と高かったけれど縁起がいいと飛ぶよ

うに売れたそうです。農家の人も助かり、買う人の喜びも生まれたんです。どんな出来事にもプラスに見える部分とマイナスに見える部分があります。問題はどちらを見るかにかかっているんです。(中略)ドイツの哲学者、ショーペンハウアーは言いました。「幸せを数えたら、あなたはすぐに幸せになれる」。不幸な人と幸せな人の違いは見ているところだけなんです。不幸な人は不幸を見つめるのがうまく、幸せな人は幸せを見つめるのがうまくです。違いはそれだけ。だから幸せになるのは簡単なんです。幸せはなるものではなく、気づくものだからです。…と書かれています。

そうは言ってもなかなか気づけないこともある。今は二十七才になった長男が小学生の低学年の頃だったと思うが、いろいろなことがあって子育てと仕事にとにかく一生懸命だった頃のことである。テレビで子供が見ている「お笑い」を離れてなんとなく見ていて

「フフッ」と小さく笑ったとき、長男が「アッ、お母さんが笑った!」と言った。私はびっくりして「エッ?いつも笑っているでしょ。」と言ったが、長男にずっと笑っていないと言われた。子どもにどんな顔を見せていたのだろうと心が痛み、それから努めて笑うようにした。不幸と思っていたわけではなかったが、幸せを見つけられなかった私だった。それを気づかせてくれた長男だった。その頃のことはもう笑い話として話せるようになっていくが、話すときながらも目が濡れてくる。小さい頃から年功序列で責任を負わせた長男は、「お母さんがいないと頑張れるのにお母さん」といって力が出ない、お母さんといると自分はだめになる」と遠くで暮らしている。つらい思いをさせてしまったと思うと同時に、自分をみつめて自立していった長男を誇らしく思う。ちゃんと食べているだろうか、風邪は引いていないだろうか、お金はあるかと心配もするが、大丈夫元気で

やっているからとのメールにほっとしつつも、ニュースを見るたびに気になり、便りの無いのは良い便りと自分に言い聞かせたりするのである。

私は幸せに気づくのが上手くなったと思う。天気が良かったり、季節の彩りを感じたり、星空が綺麗だったり、小さなことでも幸せと感ぜられる。入所さんの笑顔がみられたり、良い看護が出来たときもそう思う。看護はWIN・WINの関係にあると思う。良い看護が出来たとき私は「ヤッター!」と思い看護が勝ったと思うのである。患者に良い変化がありスタッフは成長しWIN・WIN・WINである。

私が看護師になって四十年近くになる。四年前に新生園に転勤命令が出たとき、私は悩んだ。家族と離れるのがいやだったし、通勤する気力もなかった。家から通える所で仕事を探そうと思った。しかし、いろいろあつて六ヶ月でもいいからと説得され転勤してきた。

初めはいろんな事にびっくりした。なんで!どうして!の連続だった。三十年以上看護師をしてきてどこでも看護は一緒ということを実感していたが、なかなかそれが通用しなかった。でも分かってくれる職員もいた。つらい思いもしたと思うが一緒に、いや私以上にがんばってくれた職員もいた。初めは専門職としての自覚はあるのかと思つたこともあつたが、秘めていただけで新しいものを吸収しようとする姿勢があり、良い看護を提供したいという情熱を持っていることが分かつた。その証拠に園外研修に参加する人が増え、何十年もこうしてきたという言葉が聞かれなくなった。看護・介護に関して陸の孤島ではなくなってきたと思う。医療が日進月歩、秒進分歩で進んでいる今、看護も停滞は後進であると言われている。ハンセンの歴史を理解した上で、自己研鑽を重ね、今私たちが出来ることを提供することが専門職としての責任と思う。やはり看護はどこでも一緒だと思う。

そして情熱を持った職員と共に働くことができ、新生園に転勤し、四年間続けて良かったと思っている。

四年の間に、多くの入所者の方と関わらせていただいた。そして私の部署でも数人の方を見送った。Aさんはとても強く悲しい人だった。地元の人が来園すると「見られたくない、家族に迷惑がかかる」と居室に閉じこもり、病気の告知を自分一人で受け止め、「病棟への入室時期は自分で決める」と言い、トイレまで三十分もかけて一日に何度も往復した。そんなAさんに私たちは寄り添えていたのだろうかと振り返る。Aさんは「私、頑張っているよね」「がんばるマン、がんばるマン」と何度も言っておられた。そんなに頑張らなくてもと声をかけたが、Aさんの意志は固くなかなかポータブルトイレを使ってくれなかった。本当に歩けなくなるまで居室ですごされ、入室して数日で天国に召されていった。AさんがAさんらしく過ごせるよう

に、Aさんの想いを受け止め、寄り添ってくれた職員に感謝と敬意を表したい。

入所者の皆さんには、人生の先輩として多くを学ばせていただいた。いたらないところも多かったと思うが、後は情熱を持った後輩達に任せたい。

最近、テレビで高齢者のスポーツジム通いが増えたと報道された。第2メープルケアセンターでも、昨年からロコモーショントレーニングを始めた。いつまでも自分で出来ることは自分でしたいという思いがあり、毎日継続実施している。また、入所者の皆さんに楽しんでほしいと毎月参加型のレクリエーションを実施している。楽しみは脳に良い刺激となる。最新の脳科学では、いくつになっても脳神経細胞が成長することが証明されている。今後もロコモーショントレーニングやレクリエーションを継続し、生活を楽しみ、元気で長生きしてほしいと切に願っている。

私は今後も看護師を続けたいと思う。看護

思い出

副看護師長 鎌田 國子

早いもので今年三月末で定年を迎えようとしている事に複雑な気持ちといろんな思い出が走馬灯のように思い出されます。

思い起こせば、中学校の恩師に勧められ昭和四十四年四月に名称や場所も知らなかった東北新生園の園内にあった准看護学院を受験し二年間学院の生徒としてお世話になりました。

在学当時は学業のほか病棟や治療棟での実習等が有り、入所者の方々と知り合う機会が沢山ありました。

当時、教務主任の目を盗んで日曜日に時々福島寮（独身男子寮）に先輩と訪ねいろんな

だけでなくいろんな意味で“生涯現役”、新しいことに挑戦し続けたいと思う。まだまだこれから、死ぬまでは生きるのだから、人生楽しまなくっちゃ!!



ロコモーショントレーニング
第2メープルケアセンター

お話をした事や、もう知っている職員も少なくなっただけだと思いますが新生会館（現在の車庫）で映画が上映されていて映画を見に行ったり、入所者の方々と卓球をした事や授業の中に土曜日に（女性としての身だしなみではないのですが）「お茶」と「生花」の授業があり、早朝に山や道端、一般寮に訪れ大事に育てていた花等いただいた事が鮮明に思い出されます。

卒業後、私が仙台で働いていた時、昭和五十二年八月に学院の教務主任の勧めで新生園に奉職する事になり、以後三十六年と七ヶ月、新生園の歴史と一緒に歩んだものと思っています。

当時、看護師は治療棟の各科、病棟は四ヶ月毎の配置替えが行われており、不自由者棟は看護師が配置されず、山鳩寮、高砂寮、泉・寿寮、栗駒寮は看護師長が併任で看護助手が入所者さんの全てのお世話をしていました。

各寮での生活は自立していたので、治療を必要とする場合は治療棟に来ていただくか、病棟へあがる（入室）事で対応して、当時は足穿孔症で入室する方が多かった様でした。

その頃の治療棟ではベンチ切除（皮切り）はカミソリで行なっていました、その後クーパーになり、今ではタコクリアの併用となったようです。

処置台も一・八メートル位の戸板のような台に乗り、処置する看護師に足を伸ばし看護師は立ったまま処置をする方法でしたが、その後現在の処置台に改良され、衛生材料も破棄することなく洗濯をして再生使用していました。

昭和五十四年に森芳正先生が悪性の病気の診察にあたられてから、週一〜二回のペースで手術した事や健診での胃力メラ・大腸力メラが実施され、入所者の皆様の悪性の病気が激減した事もありました。

白内障の手術は多磨全生園へ委託診療に

行った時期もありましたが、その後白内障、胆石（腹腔内）、胃、大腸の手術、肝臓の治療等は新生園で実施していました。

その時間の流れのなかで入所者の方から「傷の処置はこうしたら治りやすいよ」とのアドバイスや、病気に対して一緒に闘った、ちよつとした言葉の食い違いで怒られたり、不自由者棟で初めて企画した「ひな壇飾り」や「七夕飾り」を入所者の方々と一緒に行った時の笑顔が懐かしく思い出されます。

カラオケ大会、職員と入所者の大運動会、文化祭や盆栽展示会、園内だけの年賀状や抽選会、観桜会、パネル展、芋煮会、花火大会など季節毎の行事が催された事、また環境に恵まれ季節感あふれた新生園で勤められた事に感謝しています。

これからも入所者皆様の日々の生活が穏やかに笑顔で過ごされることを願っています。

随筆

母と娘の語らい

今野 きよし

A 娘 B 母

A 母ちゃん、この間学校で作文書くように云われて書いた

B なんて書いたの

A うちの母ちゃんは美人で言葉がきれいで優しいお母さんって書いた

B そんなに立派に書いて先生はこれは作り話だと思ったでないの

A そのように思うのかね

B 先生だもの、ちゃんと見抜いているよ

A だって先生、母ちゃんと会ったことも話したこともないもの

B 先生はね、あんたを見てちゃんとわかるの

A 母ちゃん高校の時何やったの

B おれは運動が好きだった

A 運動ってどのような事したの

B そうだな両方好きだった

A 陸上それとも水上どちら

B ボート部だった、長沼でやったのよ

A 母ちゃんどこやったの、櫓漕ぎそれとも

B 舵取りどちらなの

A 舵取りの方だった一人で

B そうだと思った、母ちゃん櫓漕ぎだった

A らいつもビリだと思った

B どうしてどうして見るもしないでビリだ

A なんて、いつも一等か二等だった

B うん、ほらだって母ちゃん細い腕で力強

A さ感じないもの

B ちゃんと母ちゃん舵取りした、大声出し

てみんなに喜ばれた

A それでは良かったね、作文にうちの母
 ちゃんボート部だったと書く
 B あんまり立派に書いてはだめよ
 A どうして書いてだめなの
 B 作文は自分の目で見たことをそのまんま
 書くの、そして他の人が作文を見て目に
 見えるように書くものだって
 A その話誰に聞いたの
 B 高校の先生に聞いた、その通り書いたけ
 れども上手く書けなかった
 A 母ちゃんでも上手く書けなかったのか
 B あんたは違う、書くの上手いもの
 A 母ちゃんってなかなか上手いね、そうし
 て私を喜ばせて書かせるようにするもの
 B そうか、仕向けるのが上手いお母さんと
 して書いたらええんでないの
 A そうか、そのように書くのが上手になる
 秘訣か、やっぱり母ちゃん見直した
 B なにそんなに感心しているのか
 A 母ちゃん一言一言が本当にわかり易く、

B みんな耳に入って来るもの
 A 学校の先生よりわかり易いのか
 B そうよ、わかり易いもの、感心した
 A あれ、昨日の仙台の話聞かせて
 B あんまり良くなかった
 A どうだったの、聞きたいけど
 B 後でお父さんに聞いて
 A そうか、後の楽しみか
 B 母ちゃん、おじいちゃん唄上手だったっ
 てね
 A 何、突然に聞いたりして
 B 私この頃聞いたからびっくりした
 A そうか、母ちゃんも勤めるようになって
 B 職場で聞いた、ある人から
 A 母ちゃんもか
 B おれも前に聞いたことあるような気もす
 る
 A そうだったの
 B 頭の中あんまりいっぱいしておくとか破
 裂するから忘れるのも良かんべ

A 頭いっぱいしておくものでないの
 B 頭の中にあんまり入れておくといけない
 A そうだ
 B そうなの私にはいっぱいないもの
 A 物事を一生懸命に覚えて頭に仕舞って、
 あとは忘れてしまうんだって
 A その話誰に聞いたの
 B その話か、将棋の名人の人がラジオで
 語っているのを聞いた
 A 必要な時に引き出しから出して使うのか
 B そうよ、そうすると頭の中はいつも空つ
 ぽにしておいて使えばいつもすっきりし
 てはつらつとしているんでないのか
 A そうか、それだから母ちゃんもおじい
 ちゃんもいつも頭の中すっきりしてここ
 にこしているものね
 B 母ちゃん怒ったことあるか見たことない
 A でしょう
 B そう云われるとそうだね、見直した母
 ちゃんを、でも少しはあるね

B 少しくらい仕方ないべ
 A そうだよ、いつも一生懸命働いている
 B し、体も疲れているからね
 A 少しくらい大目に見てよ
 B 今度作文書く時、いつもにこにこして笑
 顔の絶えないお母さんと書くかな
 A それはオーバーだべ、誰もそう思わない
 B でないか
 A もう少し控えて書くかな
 B そんなにきれいに書かれると、これから
 A 外を出歩き出来なくなるから
 B 楽しかったね、ゆっくり話が出来て良
 かった、本当にありがとう又あると良い
 A ね
 B そうだね

『手を差しのべ合って』

栗原市瀬峰中学校二年 菅 原 麻 衣

「ハンセン病」を知っていますか。以前は「らい病」と呼ばれ、平成8年まで、「らい予防法」という法律のために、ハンセン病にかかった人たちは隔離されてきました。子どもだろうが老人だろうが、家族と離れ離れにされたのです。まるで人が人を狩りしているような事実にはショックを受けました。

感染力も弱く、発病しても適切な治療で治るのにもかかわらず、正しく理解されないために、ハンセン病にかかった人は、病気のウイルスそのもののように扱われ、差別された

のです。本人だけではなく、家族までも周囲から冷ややかな目で見られたそうです。ハンセン病にかかった方々は、偏見のある法律の見直しが遅れたため、長年にわたって苦しめられました。多くの人がたくさんものを失い、傷つき、絶望に突き落とされたのです。

私は、ハンセン病の元患者さんたちが暮らす「東北新生園」へ職場体験で訪問させていただきました。病院のような施設だと思っていましたが、入所さんのご夫婦の部屋に上がらせていただくと、まるで実家の茶の間の

ような、生活感あふれる温かな造りで、思い出の品が並んだホッとする空間でした。

入所さんご夫婦も温かい方々で、私たちをまるで自分たちの孫のように接してくださいました。奥さまは目が見えず、私たちの顔を見ることができなくなっていました。私たちが、私たちの声のする方へと身体をずらし、私たちの質問や話を大切なもののように聞いてくださいました。そして、お二人の体験を話して下さいました。

家族と引き離されて十三歳で新生園に入り、不安で押し潰されそうなおもいだったこと、ハンセン病の患者が出たということ一つで、家族にづらい思いをさせてしまった苦しみ、常に周囲からの視線を気にしながら生きてこられたこと…。

最後に、「私たちのことをどう思いますか？」と聞かれました。かわいそうに見えますか、と。私はこう言いました。

「はい。最初はそう思っていました。ですが、今は尊敬しています。」と。

「人よりも厳しい立場に立たれ、何度となく倒れそうになる中で、自分を強く持ち、立ち上がり、耐え抜いてこられた、そのような姿こそが、人間のあるべき姿なのだと思います。」

「ありがとう」と言われたときに、私は自分が夢中になって話していることに気付きました。とてもうれしそうにしているその笑顔からは、私の祖父母と何ら変わらない優しいぬくもりが感じられました。厳しい環境を生きた深みのある、しっかりとした顔つきは、今の日本ではなかなか見られない力強い心を持った証のように思えました。

ハンセン病について調べる中で、ハンセン病の方の宿泊をホテルが拒否した事件、ハンセン病の父母を持つ子供が生活する施設の児童が地元の小学校に通学することに、PTAが反対した事件等を知りました。他にも多く

のところ、同じような差別を、ハンセン病の方々は受けてこられました。

正しい知識がない頃は、目に見えないものへの恐怖感があつたのだと思います。けれども、それ以降も、偏見による差別は続きまして。苦しんでいる方々に、手を差しのべるどころか、突き放すようなことをしてしまいう人間の弱さというものを、つくづく思い知りました。

一度深い傷を負うと、その傷が簡単に癒えることは難しいことです。ハンセン病に限ったことではなくユダヤ人、黒人などというだけで差別され、迫害された例もあります。

人はなぜ、自分と相手を分けたがるのでしょうか。私は、自分を安心させ、自信を持つためではないかと思っています。私はこの人とは違う、特別なんだ、と言い聞かせて。人と比べ、人を見下すことで、自分が安心するなんて、おかしいことだと思いました。自分で自分を誇れるようになればいいじゃないか

と。

けれども、私にもたぶん、そんな部分があるのだと思います。人間には弱さがあるからです。弱い心が人を不安にさせ、他の人を傷つけるのだと思います。もしも世の中の人から弱い心がなくなれば、世の中のさまざまな問題が解決できるのではないのでしょうか。戦争や人種差別、いじめなども。

しかし、そんなこと実際にはそう簡単におこりません。だからこそ、ひとりでも多くの人々が、手を差しのべ合わなければならぬのです。相手をちゃんと見て、同じ人と人として向き合わなければならぬのです。誰をも大切な一人として受けとめ、歩み寄っていきけるような人になつていこうと思いました。

新生園に行った帰りに祖父を見て、（やはり、あのじいさんと何も変わらない）――。

あらためて、先ほど会った優しいお二人のこれまでの人生を思わずにはいられませんでした。

新生文芸

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《年末の夕暮》 今 野 きよし

向こうの空に
黒雲迫り来る
青空見えない
「御飯です」よと
コール鳴る
間もなく

夕飯配られる
急いで席に着く
感謝の祈り後れる
一箸つけてから

サッシ越し空を見る
雁が四、五十羽
北から南へ
とんで行く
いつもとちがう
方向に
雁も年末
気にかけて
右往左往する

夕飯に
箸をつける
食事を
いただき乍ら
今年のことを

思い浮かべる
言葉が出ない

来年は数えて
八十九になる
九十には届かない
若いとは云えないが
どこかほっとした
気持ちになる

来年は何をしよう
まず体のこと
俳句と詩
磨きをかけて
行きたいものと
誓いを立てる

【選評】

《年末の夕暮》

今 野 きよし

一年を無事に過ごした作者のしみじみとした安堵感や翌年への新たな気持ちを描かれている。祈り、雁、食事と言葉、年齢を用いたフレーズからは、作者がこれまで培ってきたいのちの尊さといったものが感じられる。

短歌

長田雅道選

◇ 入 選 ◇

佐藤 つや子

食材も料理の名前もカタカナのごちそう頂く今月の給食

【選評】

日本人の食生活も戦後大きく変わり、近年では外国からの輸入された食材が国産のものをかなり上まわっている。上句の発見は素晴らしい。楽しい給食だったにちがいない。



十二月近くなりたる療園の人の気配の
少なくなりぬ
今 野 きよし

【選評】

寒くなってきたので部屋にこもる人が多くなったのであろうか。下句には鋭い感性が感じられる。多くの人が平凡であろう日常生活の中から輝く詩を見出すことはやさしいことではない。

◇ 佳 作 ◇

佐藤 つや子
つつがなく新年迎えて思いおり感謝を一つまた重ねしと
そとでする事無くなれど防寒衣始末しえずにまた仕舞いおく
カセットテープ片づけおれば今は亡き友の声ありしみじみと聞く
あたたかきベッドに老いの身横たえる守られ生くるをしみじみ思う
物言わずなりしと聞きぬかの友よ何を考え何を思い居る

今野 きよし

きらきらと風に光りし沼の水白鳥四羽
悠悠泳ぐ
強風に雲の固まり流れゆく山の彼方に
見え隠れして
電線に風の当りて音強く何かありそな
不気味に聞こゆ
このごろは眠れる夜の長くなり無駄な
時間を費やしており
擦れ違う職員今日も急ぎ足師走の風を
まともに受けて



俳 句

山田 桃 晃 選

◇ 入 選 ◇

園 永 泊
こんにやくの出番となるや煤払い

【選 評】 蒟蒻の出番とは面白いですね。

“煤払い”を思う様にはかどり楽しい一家団欒の夕餉。蒟蒻を食して、すい込んだ活物をきれいにしてくれる蒟蒻の出番である。

今野 きよし
何気無い一言楽し冬の夜

【選 評】 なんとなく重苦しい話になりかけた時、何気無い一言。旅のゆく

先々か、若い時の恋文のことかも知れぬ。寒い夜はあたたかい話が何よりの糧。

斎藤 照雄
療園の池にも集う冬の使者

【選 評】 療園にある池は大きいのだろ

う。集うのは鴨や白鳥、雁等々様々な鳥が渡って来る。冬の使者として療者を楽しませてくれる池。

◇ 佳 作 ◇

斎藤 照雄

湯の宿にほのかに梅のにおいけり
北帰行終り伊豆沼かんさんと
鳥帰り山療の池静かです

今野 きよし

思うこと互いに語りクリスマス
黒ずみし雲迫り来る冬の空
不具の手を巧みに使い柿を剥く

園 永 泊

ふるさとの凍大根や軒にゆれ
人の世に耳を澄ますや枯れ尾花
吊るされし鮭よく揺らぐ師走風

川 柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》 今野 きよし

送られしりんごの艶に癒される

【選 評】

冬の果実の王様はリンゴ。艶々とフレッシュな輝きは、送り主の心の輝きでもあろう。荷を開けたときの素直な喜びが一句になった。

◇ 佳 作 ◇

桜山 南仙

初日の出光るおつむが温まる
ワンカップ二本の足をからかわれ

今野 きよし

いつのまに私の年齢賞味期限
にこにこと疲れ隠しておもてなし

斎藤 照雄

どの顔も元旦迎えた顔となり
北風のうなる日焼酒かつくらって

桃 生 小富士

復興の遅れを初日何んと見る
除夜の鐘みな善人の顔で聞く

《地位》

桃 生 小富士

千人の味方が居ても孤独です

【選 評】

人間の本性を衝いた作品。所詮人は独り、と言ってしまうえばそれまでだが、親しい人がいても、何人もの人に囲まれていても孤独感はある。たった独り居る淋しさよりも、群衆の中で募る淋しさほど厳しいと言ふことだろう。

《天位》

桜山 南仙

表裏歩いた札があたたかい

【選 評】

お札があたたかい、と擬人法につながる作句。喜びにも悲しみにも使われるお札だが、人生のあらゆる場面を知るお札。ピン札ではなく、よれよれのお札かも知れないが、だからこそあたたかい。穿ちの利いた意味深長な秀句。

定年退職を迎えて思うこと

看護師 佐藤 昌子

今、私が退職の時期を目前にして感じる事は、時の立つことの早さです。

振り返ってみますと思ひ出されるのは、初めての勤務場所である高砂センターでのことです。

職場の雰囲気や業務にも少しずつ慣れてきた頃カラオケ大会があり、入居者の皆さんや先輩の方々から、「新人は必ず歌う事になっているんだよ」と話されていました。翌年私にも声がかかり、さてどんな歌がいいのかと迷いましたが、「一円玉の旅がらす」を選曲しドキドキしながら歌いました。その後、治療棟の廊下で一般寮の方から「あんだだべ一円玉の歌うたったの？」と声をかけていただきました。

ました。「はい、そうです」と返事をする、「年とつとさ、人の名前なかなか覚えられないんだ、今からあんだのこと一円玉って呼ぶがらね」と言っていたきました。また、ある時治療棟勤務の時のことです。診察の待ち時間があつた時、入居者の方からカラオケの話題が出て、「今頃五円玉位になったか？」とか「一円玉いつも元気だな」等と声をかけていただき、笑いでその場が明るくなったことを思い出します。

それから勤務交替が何度かあり、あるセンター勤務になった時のことです。数日後ある入居者の方と何年かぶりでお話する機会がありました。その方の居室にはテーブルの上に小物入れが置かれてあり、その中に小さな折り鶴が三羽入っていました。どうしたのか聞いてみると「あんだが前の寮にいた時折ってくれたんだ」と言われました。私はすぐに思い出せませんでした、よく見てみると紙の色も大分褪せていました。その方はセン

ターを新設するため二回も転寮されたと思いますが、それにもかかわらず大切にずーっと持っていてくださったお気持ち、私はとても嬉しく思いました。その折り鶴から人を思いやる情を感じ、その後仕事をする上でとても私の励みになり感謝しています、有難うございました。

勤めている間、本当にいろんなことがありました。その中で入居者の方々で行ったセンター行事です。新年会やお楽しみ会等があり、私の趣味である和太鼓を何度か皆さんと御一緒に叩かせていただきました。その頃に比較すると今では体力、気力ともに半減したと感じていますが、地域にもボランティアとして微力ながら参加させていた দিয়েおります。

私がメンバーに入っている会は、ボランティアひまわりの会、と言ひ、この会に入ってから十年以上になります。大きな行事として迫町にある水の里ホールで、二年に一回歌や踊りそして太鼓にとその都度工夫を凝らし

て行ってきました。その間何度か老人ホームへ慰問させていただきました。少しでも楽しんでいただければという私たちの思いからです。先日そのボランティアの集まりがあり、次回の発表会について話し合いました。これから計画を立て、実行に移すまでいろいろと大変です。しかし、太鼓の曲を作る際、前年度と同じリズムにならないようにとか、太鼓の配置を考えたりしていると楽しい時間はあつという間に過ぎてしまいます。

退職後はいつまで出来るかわかりませんが、今後もボランティアのメンバーの人たちと一緒に活動を行い、そして少しでも楽しんでいただける機会があればいいなあと思っております。とにかく元気なことが一番です。で、皆様もお体を大切にされてお過ごしください。

最後になりましたが入居者の皆様、そして園長先生はじめ職員の皆様、大変お世話様になりました。有難うございました。

思い出のアルバム

介護長 晝 八 和 枝

いつのことだか
おもいだしてごらん
あんなことこんなこと
あったでしょ

昭和五十四年九月十七日、賃金職員として福祉室採用になり、今日まで三十三年六ヶ月務めることができました。当時は木造の建物で楓会事務所と福祉室が隣り合わせで旧売店の東側に並んでいました。自治会役員の方々も、庶務部 事業部 作業部 文化部 生活部 渉外部と大勢で活気があり、用事があつて行くときには恥ずかしさと緊張がありました。

秋の大運動会も盛大に応援合戦と共に、競いあう声がグラウンドいっぱい響き若き日の頃が甦ります。

品評会に向け丹精こめて作った野菜は店先では見られないものばかり、また盆栽作りもプロ顔負けですべてに愛情が込められて、りっぱなものばかりでした。

不自由者旅行のバスの中は歌とお話して盛り上がり、隣人との会話もきこえないくらいの賑わいで、帰りのバスには土産がいっぱいなのには驚き、買い物も旅行の楽しみだったのですね。

カラオケ大会では入所者の皆さんも職員も華やかにステージを飾り、新生会館に彩を添えましたね。

ゲートボールは、高松宮杯・コスモス杯と大きな大会に汗を流しての練習、グラウンドから聞こえてくるチームの声が一丸となり勝利を得ました。記録は沢山思い出の中にあります。今日まで多くの方々との出会いがあり、

た。後に楓会事務所と福祉室が、第一メーブルケアセンターの前に移り、この頃には少し慣れ自治会の皆様との会話も増えて親しみができてきました。福祉の中でも私は包帯再生の係として、入所者の皆様と作業を共にしていました。女性だけの仕事場でしたので話題も豊富、中でも料理の話になると沢山のことを教えて頂きました。手作りの天ぷら、煮物、漬物等を頂きながら一緒にお茶を飲んだこと、入所当時のことを話してくださる方もあり涙をながすにはいられなかった事を憶えています。春秋の山菜採り等にも連れていつて貰いました。また園内にあるそれぞれの教会等の多さに驚いたものです。そこで昼になると弁当を持っていき高台で、とても爽快な気持ちで食べられました。

親善交流会も多く、白いエプロンをかけ入所者の皆さんと一緒に食事を共にしながら接待した日も楽しい思い出でした。

多くの方々との別れもありました。ここで学んだことは人の力強さと温かさです。いろいろな行事があるたび一緒に歌ったり、踊ったり、共に笑ったり入所者の皆様の温かい協力に感謝します。これからも皆様に負けないよう第二メーブルで取り組んだロコモ体操を続け、若さと健康を保ちたいと思います。皆様方との出会いと思い出に感謝致します。ありがとうございます。

たのしかったこと
うれしかったこと
いつになっても
わすれない



思い出

看護助手 佐竹貞作

退職ということで、原稿依頼を受けた時、もうそういう歳になったのかと思いつつ、二十五年間の思いを苦手なペンですけれども取らせて戴きます。

私は昭和六十三年五月に三十五歳で看護助手として採用になり、泉・寿寮に配置されたのが出発であります。何もわからない「介護」という職に対し、日を増すごとに不安と戸惑いを感じる日々でした。先輩から介護員としてのご指導、ご鞭撻を賜り、ガンバレと励まされ勇気づけられました。そんな時、園の行事でカラオケみちのく会から観桜会がありますので、自己紹介がわりに何かやってくれませんかと依頼され、恥ずかしながら新生会館

にて出場、舞踊中に笠が壊れて開いた時は、大笑いされたことは忘れられないことでもありました。この踊りも若き頃、二十代地区の青年団活動していた頃、秋の祭りに神社に神楽祭りを奉納するために先輩から踊り、獅子舞のご指導を受けた賜物です。

このことが新生園にまで役立つとは思っていませんでした。芸は身を助けるとはこのことかなーと思いを感ぜさせられました。

これを機に入居者の皆さんとのコミュニケーションが取れやすく戸惑いが解消され、事がある度、依頼されるようになり、カラオケ会には後に司会・カラオケ等で出場させて戴き、良き楽しい思い出となりました。

バス旅行では、春は岩井崎、秋は定義山とあり、両方に入居者様の付き添いとして同乗させて戴き、店に行つて買物にはびっくりする程でした。三年前の二〇一一年三月十一日の大震災により岩井崎に行かなくなったのは、非常に残念に思っております。早い復興

を祈願致します。

センター内でのレク行事も週間月間年間とあり、十二月のお楽しみ会は盛大であり、入居者の皆さんと共に歌ったり踊ったり芸をしたり、私も出場メンバーの一員で、下手な踊り、カラオケ、司会等をやり、会を微力ながら盛り上げ、楽しい時間を共に過ごさせて戴きました。

また入居者様の若き頃は、秋の運動会、マラソン大会等があり、私もマラソン梅ヶ沢コースに参加したことがあり、職員共に汗を流しゴールまで完走した思い出があります。

車庫では文化祭、菊花展、野菜品評会、さつき展、写真、絵画展が開催され、すばらしい賞を戴いている作品ばかりで、地域の人も多く集まり、買い求めていく人もたくさんおりました。私も植木を何本か買い、庭に植えております。今としては、記念樹となるかなー。

文化面では、短歌、川柳、詩、絵等すばら

しき作品を作り、多方面で色々賞を戴いている入居者様が沢山いることに感銘致しました。

最後になりますけれど、二十五年という年月の流れには、園の古い面影もなくなり、新しい建物と変化し、それに伴い入居者様も九十名と激減し、更に高齢化となり、物寂しさを感じ得ますが、元気で楽しい療養生活を送られ、長生きして下さい。

入居者様、職員の皆様大変お世話になり、ありがとうございます。



ひな祭り会

第1メープルケアセンター
—平成26年3月4日—

母娘の会話 三つ指

今 野 きよし

A 娘 B 母

A 母ちゃん三つ指って何のことや
B 三本の指だべさ
A それだけではわからない
B それだけだ、おらわからない
A 話半分だね
B あんだ、その話誰に聞いて来たのや
A この間、茂ちゃんの母ちゃんに聞いた
B その時すぐ聞けば良かったのに
A ほだて、すぐ聞けなかった
B 話わからない時はすぐ聞くものなの
A すぐ聞けば良かったのか

B ほだべ、家さ来てから聞かれたたって話
A わからないもの
B そうだね、その通りだね
A ほだべ、話わかったか
B はい、わかりました、だけれども
A 何ほだけれども、何したのや
B それだけでは、まだわからない
A そうだよな、その通りだね
B ほだて母ちゃん、ちゃんとわかっていて
A もおれのところ話はぐらかしているね
B 何もはぐらかすも何もしない
A そうだよな、その通り答えていたものね
B その通りだね、今わかったか
A 本当は何なの
B 三つ指ってはな、父ちゃんが朝勤めに出
A る時に、三本の指をついて行つてらっ
B しゃいと云って送り出す
A 行く時、帰った時は何と云うの
B 帰った時は、玄関に出てお帰りなさいっ
A て三つ指ついて迎えるのを云うの

A そうして父ちゃんを出迎えするのか
B 勤めばかりでなく用事で出かけた時も同
A じようにするの
B 家の人がみんなにこにこして楽しく暮ら
A すようになるだよ
B そのようにするの何も難しいことない、
A 悪いことでもないのだよ
B 良いことだね、その役目母ちゃんやるの
A か
B 何も母ちゃんばかりでないべおばあちゃ
A んだつて、あんただつていいのよ
B だつて母ちゃん、おれそんなことしたら
A おかしくないべか
B なに思い切つてやつてみたらえがんべ
A 誰さやつたらえがんべ
B 初めはおじいちゃんにやつてみたら
A おじいちゃん喜ぶべか
B おじいちゃん大喜びするべな
A おじいちゃん喜ぶとええね
B それは喜ぶよ、目尻下げてな

A 母ちゃん、父ちゃんをそうして送ったこ
B とあるの
A 三つ指ついて送ったことない、水仕事の
B 手を拭きながら横向いて行つてらっしゃ
A いて送ったことある
B それ毎日やったの
A そうだね、ときたまだった
B そうだったの、その時父ちゃんは機嫌良
A かったの
B 帰りにたい焼き買って来た
A 母ちゃんそんなことまで覚えていたのか
B それはそうさ、父ちゃんの気持ちうれし
A かった
B それ母ちゃん毎日続ければえがつたね
A 気持ちにはあつたけど忙しかったりして続
B かなかつた
A 母ちゃんもいろいろ考えていたんだね
B 母ちゃんだつていろいろ考えるさ
A おばあちゃんはどうしたんだべ
B おばあちゃんはおら見たことない、たま

A には遠くから声かけていた
 B ほんでおれ少し練習してみるか
 A そうだな、それは良いことだもの
 B 今はそうしている人少ないのかな
 A そうだな、昔はやってたんだな
 B テレビの時代劇でやっているね
 A 昔は武士とかそういう階級の人はやって
 B いたと思う
 A 日本にはそういう美しい文化があったん
 B だね
 A 終戦後、廃れてしまったんだな
 B そういうのを母ちゃん見たり聞いたりし
 A たことあるの
 B テレビで見たことあるだけだ
 A そういうことやってる人居るんだね
 B 全然無くなったわけじゃないと思う
 A 母ちゃん、良いことは残しておきたいね
 B この間、友達の百合子さんがある人に貴
 A 方は三指ですかって聞かれたんだって
 B なんて答えたのかね

B 百合子さんは全然そんなことない、それ
 A は男の人の願望でしようって云ってやっ
 B たって云っていた
 A 聞いた人なんて云ったの
 B だろうなって云っていたそうだな
 A 男の人って女と考え違うんだね
 B そのようだな
 A 茂ちゃんの母ちゃんの話気になる
 B それはそうさ良いことは残しておきたい
 A もの
 B それだったら誰か声をかけて会を作って
 A 始めたら良いのにね
 B NPO法人三指をつきましようという
 A 団体作ったらええ
 B 誰声がけするの、母ちゃんええね
 A おらやんだ、母ちゃんだなんてやめてく
 B れ
 A では茂ちゃんの母ちゃんええね
 B それはええ、大賛成だ
 A 私も同じ